

金曜コラム - 大韓体育会・文体部の「空振り」**カン・シヌク（檀国大学校教授、前体育市民連帯共同代表）**

スポーツ界の性暴力問題でスポーツ界はもちろんのこと、全国が騒がしくなっている。大統領まで出て根絶の意志を強く宣明したが、肝心の主務省庁である文化体育観光部は空振りで問題の本質がぼやけている。この機会にオリンピックメダル年金と少年体育大会を廃止し、大韓体育会から大韓オリンピック委員会（KOC）を分離するという文体部の発表以来、スポーツ界の雰囲気はぐちゃぐちゃになった。

この問題はすでに十数年前から議論されてきたスポーツ界の熱い争点だった。しかし今回は、まず選手たちの人権回復に集中して、次に知恵と世論を集めて徐々に解決すべき事案である。しかし政府の安易な対策は今後、第2、第3のシム・ソクヒ（スケート冬季五輪ショートトラックで金メダル2冠の国家代表、コーチから受けてきた暴力・性暴力を告発した）が現れにくい状況を作ってしまった。

エリート体育を後戻りさせるとも言える政府の未熟な対策にスポーツ界は声を合わせて反発している。想像しがたい苦痛と恐怖を乗り越えて自分を世にさらしたシム・ソクヒ選手の勇気はややもすると「この問題のためにメダル年金や少年体育大会まで無くなるのでは」という、周辺体育の願望に埋もれてしまう状況である。シム選手に対しあまりにも恥ずかしいし申し訳ない状況になった。今後、大々的に暴力、性暴力の実態調査を実施するとしながら文体部が生半可に発表した対策は、むしろ選手たちの口を防ぐ悪手になってしまった。政府の粗雑な対策はスポーツ界と専門体育の選手たちの事情を全く知らずに出した、とんでもないものだった。

シム選手の暴露直後、このような雰囲気は十分に予見された。加害者と名指しされた趙ジェボム元コーチはまだ無実を主張しており、大韓スケート競技連盟は誰も、自分のせいであり私たちのせいだという自責の反省を出さなかった。大韓体育会長が世論に押されてカメラの前で頭を下げたが、彼の真正性を信じている人はほとんどいない。

反省をしないのは文体部長官と体育を担当する第2次官も同じだ。スポーツ界の暴力、性暴力は少し周囲を見てみれば確認できる問題であった。あえて10年、20年前のことを言わなくても、現在どんな事がどれほど毒キノコのように生えているのか最小限の良識を持つ公務員ならよく考えなければならない問題であった。知らなかったと言うならば厳然として職務怠慢であり、知っていても目を閉じていたなら職務放棄だ。

問題解決の出発は徹底した自己反省から端を発しなければならない。文体部は大韓体育会と体育界の現場だけに矢を向けるのではなく、自分たちにまず厳しくしなければならない。事が起きるたびに革新委員会だの、何委員会だの作って自分の誤りと罪を別の場所に廻したり、時間だけ浪費したりしてはならない。大韓体育会と文体部が対策だといって打ち出しながら、約束でもしたように別々に技術革新委員会を発足させたのは拙速の圧巻である。

大韓体育会長はすでにスポーツ界や社会から尊敬と信頼を失った。非常勤であり名誉職的な大韓体育会長が尊敬と信頼を失えば適切に業務を遂行するのは難しい。自分の言葉通り懸案を「早急に」解決し、すぐに席から降りなければならない。文体部長官・次官はより明確な行動と政府らしい対策を示さなければな

らない。苦勞して焚いた火を生かすどころか、冷水をかけていいのだろうか。

*この記事は、2019年2月20日京郷新聞に掲載された寄稿文です。

出典

http://news.khan.co.kr/kh_news/khan_art_view.html?artid=201902192021005&code=990304#csidx80ab62fd618db50be808f77bb80bba8

01 京郷新聞 2019. 2. 18

〔 監査院、国家代表選手の性暴力など管理・運営を監査 〕

監査院が趙ジェボム前ショートトラック代表コーチの性暴力疑惑などで触発された体育界の管理・運営の実態に監査を実施することを決定しました。監査院は、「国家代表選手村の運営など国家代表選手の管理・運営」に関する監査を実施する予定だ、と18日明らかにしました。

先に文化体育観光部は1月14日、国家代表選手村の運営など国家代表選手の管理と運用の実態について監査院に公益監査を請求しました。文体部は大韓体育会と合同でスケート選手暴行などスポーツ界の不正関連自己監査を実施しましたが、1月にシム・ソクヒ選手が趙（元）コーチを性的暴行の疑いで告訴した事実が知られ、信頼の確保のために監査を請求したものです。

文体部は国家代表などの選手と指導者の管理の適正性、国家代表選手村運営と訓練の管理の適正性、スポーツ不正関連申告処理の適正性、文体部の大韓体育会管理・監督の適正性などを監査してくれと要請しました。大韓体育会はスポーツ界指導者の懲戒と代表選手村の運営を担当しています。これに監査院は国民の関心が高いことを考慮し、監査を実施することを決定しました。ただし、性暴行・暴力関連不正行為を追加で摘発するのは監査の範囲から除外する予定です。国家人権委員会を中心に構成された「スポーツ人権特別調査団」が性暴行・暴力を全数調査することにしたからです。

監査院は特別調査局所属の監査担当者など19人を投入して文体部と大韓体育会などを対象に、2～3月中に監査資料を収集し、4月に本監査に着手する方針です。

趙（元）コーチは2018平昌冬季オリンピックを準備中だった昨年1月16日シム・ソクヒ選手を数十回殴るなど、2011年から昨年1月までの選手4人を常習暴行した疑いで起訴され、昨年9月に1審で懲役10ヶ月を受けて法廷拘束されました。続いて先月30日に開かれた控訴審では、懲役1年6ヶ月を宣告されました。警察はまた、去る7日、趙（元）コーチに児童・青少年の性保護に関する法律違反などの疑いを適用して、検察に起訴意見で送致しました。趙（元）コーチはシム・ソクヒ選手が高校2年生だった2014年8月から2017年12月までに泰陵・鎮川選手村と韓国体育大学スケートリンクなど7カ所でシム選手を数回、性暴行した疑いを受けています。

*出典

http://news.khan.co.kr/kh_news/khan_art_view.html?artid=201902181400001&code=910100#csidx1277981489f251c94cea9bf6b4b8c79

02 ハンギョレ 2019. 02. 18

【 全南学校運動部、合宿所すべて閉鎖されることに 】

全南地域（訳注：全羅南道は半島の南西に位置し光州周辺の地域）の学校運動部の合宿所がスポーツ界

の性的暴行波紋と学校体育政策転換に基づいて、すべて閉鎖されるようです。

18日全南道教育厅と全南道議会の言葉を総合すれば、全南地域でサッカー・バレーボール・野球などの種目の運動部合宿所を運営している学校は、中学4ヶ所、高校6カ所の計10カ所です。今年初めに小学校2、中学7カ所、高校20カ所の計19箇所ですべて350人余りが合宿しましたが、社会的な注目を受けて運営が半分ほど減りました。これらの合宿所は寝食を提供する対価として30万～50万ウォンの費用を親から受けてきました。

道教育厅は26日まで合宿所運営実態を点検した後、学校側に閉鎖を勧告することにしました。代わりに閉鎖期限をつけず段階的に門を閉じるようにしました。小学校・中学校は全面閉鎖し、高校は休暇中や大会前に短期間運営できるようにしました。高校は寮の形に転換して遠距離に住む選手・学生が生活する案も検討中です。ユン・ヒョンスク道教育厅体育チーム長は「種目に応じて、地域に応じて、学校別に条件が非常に違う。点検と協議を通じて、既存の施設を寮に転換するなどの選択肢を用意する」と言いました。教育部は過去2016年に小学校と中学校の合宿所を廃止するようにし、昨年末には高校合宿所を廃止しろと市・道教育厅に注文しました。学校体育振興法には学生選手の学習権を保障し、身体と感情の発達のために学期中に常時合宿をしないように努力しなければならないという規定があります。

合宿所の閉鎖に伴う後遺症を懸念する意見も出ました。全南道議会の李ヒョクジェ議員は「教育厅が合宿所を根絶しろという要求をいつも無視してきました。最近10年間に85億ウォンをかけて学校18か所に合宿所を建設し、実績中心に運営するようにあおった間違いから反省せよ」と指摘しました。彼は続いて「学校224か所で3200人以上の学生選手が学業と運動を並行しているだけに、政策の急激な変化による被害を最小限に抑える必要がある」と強調しました。

出典：

<http://www.hani.co.kr/arti/society/area/882587.html#csidx108754d80d66158a8bacf93dc893d0b>

03 ソウル新聞 2019.02.22

チームキム報奨金から国大選抜まで... 金ギョンドゥウが好き勝手

平昌冬季五輪女子カーリング代表「チームキム」が訴えた人権侵害、不誠実指導、選手賞金と助成金横領、補助金不当執行、金ギョンドゥウ前カーリング競技連盟会長職務代行一家の親戚採用とカーリング訓練場私物化などがほとんど事実と確認されました。

文化体育観光部は昨年11月19日から12月21日までの5週間、慶尚北道、大韓体育会と進めた「平昌冬季オリンピック女子カーリング代表選手訴え文契機の特定期間監査」の結果を21日、ソウル世宗路の政府庁舎別館で発表しました。文体部は監査の結果に基づいて金ギョンドゥウ前会長と娘婿のジャン・バンソクダブルミックスチーム監督の業務上横領と背任、補助金管理法違反、慶北体育会カーリングチームの管理責任者と慶北カーリング協会、義城カーリングセンターについての捜査も依頼することにしました。監査の結果によると2015年以降、慶北体育会女子カーリングチームが受けた報奨金を管理したジャン監督は平昌大会以来後援金と激励金を通帳や現金として保管し、特別褒賞金5000万ウォンは選手たちの同意なしに慶北カーリング協会の収入として計上するなど、総額9386万8000ウォンを選手たちに与えませんでした。

金（前）会長は甥を代表戦力分析官として採用し、面接に娘と娘婿に出席させました。ジャン監督はトレ

一ナーとして、金監督は選手として採用し、資格審議も経ませんでした。金監督は2015年以來、選手としてプレーしていないのに、昨年再契約時に「優秀選手奨励金」の支給を受け、慶北体育会は審議文書を虚偽作成しました。

金（前）会長の長男は2017年3月に健康を理由に軍からの早期転役（訳注：他の兵役に転ずること）をしましたが、慶北体育会は資格審議せずに契約を締結し、昨年再契約時に過度の給与を策定しました。金（前）会長は、長男を代表として選抜してレギュラーに起用するように男子代表の指導者に圧力をかけました。金（前）会長一家が慶北義城カーリングトレーニングセンターを私有化して不当に使用した金額は2014年から5年間で5億900万ウォンに達し、約4億円のセンター売上を減らして申告したり、センター使用料（約11億2870万ウォン）についての税金計算書を発行しないなど、租税を脱税した状況も摘発されました。

出典：

http://www.seoul.co.kr/news/newsView.php?id=20190222012029&wlog_tag3=naver#csidx7c325ba96c27f06b7b7c1eff793c3ec

INFOMATION

体育市民連帯 ソウル市 瑞草区 瑞草洞 1485-3 スンジョンビル 305号

체육시민연대 서울시 서초구 서초동 1485-3 승정빌딩 305호

Tel : 02-2279-8999、E-mail : sports-cm@hanmail.net

ホームページ：<http://www.sportscm.org/>

日本語訳：佐藤好行 新日本スポーツ連盟 国際活動局 韓国担当 jr1fep@gmail.com